

福島第一原発事故雑感

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(これが気象庁が付けた本名)とそれに伴う大津波による東日本大震災は、3月11日を境に日本を変えたようだ。これは、2001年9月11日にニューヨークなどで起きた同時多発テロ事件がアメリカを変え、世界を変えたことに近いといえる。このようなことが起こってしまったことに、どう対応すべきなのかわからないまま、私は毎日を過ごしている。マグニチュード9.0などというとてつもない巨大地震があり得ることは頭ではわかっていたはずでも、それが現実起きてしまったことの意味がまだ体でわかってはいないのだ。

大津波の破壊力の凄さ、恐ろしさを改めて知らされた。しかし、今回の大震災を複雑なものにしたのは原発事故だ。原発事故を伴わなかった阪神淡路大震災は天災だったが、今回の東日本大震災は天災とは別の種類の大きな問題につながっている。原発事故に伴う電力不足によって、現代の生活というものが電力を抜きにしては成り立たないことを誰もが感じたはずだ。今後も感じるようになるかもしれない。原発事故は、現代文明が危うい基礎の上に築かれたものであることを否応なく見せつけた。それによって、そのような現代文明はこのままで良いのかという問題がクローズアップされたのだ。

私たちの今の生活の枠組みを変えることは至難だ。卑近な例を挙げよう。多分30年ほど前までは、電気と都市ガスとは完全に

別系統のエネルギーだったから、電気がなくても、ガスで風呂を沸かすことができた。また、ガス暖房機は電気がなくても火がついた。ところが、今ではガスを使うときに、電気が必要になっている。このような仕組みを元に戻すか、あるいは面倒でも2本立ての仕組みに変えることは不可能ではないかもしれない。しかし、そういう方向に社会を動かすのは容易ではないだろう。

今回の原発事故にはわからないことが多い。4月26日の新聞等の報道によると、政府と東京電力の福島原子力発電所事故対策統合本部の事務局長を務める細野豪志首相補佐官は、4月25日の記者会見で、3月半ばに起きた原発建屋での凄まじい爆発について、「圧力を逃がすための“ベント”をしたあとに水素爆発が起きることを予測した専門家は見ていない」と述べた。「見ていない」という表現は変だが、「いなかった」ということだろう。これは信じがたいことだ。原子炉の核心である圧力容器内の温度が上がり、圧力も高まっていたため、圧力を下げるために‘vent’したのだから、水素が出てくることは当然想定されなければならなかった。どれぐらいの量の水素が出るかもある程度推定できたはずだ。水素爆発はチェルノブイリ原発事故でも起こったとされており、専門家がその可能性を知らなかったはずはない。

何故建屋を密閉したままにしていたのかわからない。密閉された建屋内に水素が充満してくることは当然だ。水素が充満す

れば、何らかのきっかけで簡単に水素爆発は起きる。水素爆発は1号機、3号機、4号機で起きたが、同じ日に起きたわけではなく、1号機では3月12日に、3号機では3月14日に、4号機では3月15日に起きている。したがって、1号機で起きてから、3号機と4号機の建屋の密閉を解除できたのではないか。水素爆発で建屋が破壊されなければ、高い放射能をもつ瓦礫が原発周辺に散乱することはなく、事故対策作業はやりやすかったはずだ。

使用済み燃料棒を水冷するためのプールが圧力容器の真上にあることも不思議なことだ。水素爆発によって、1,000トンもの水を溜めるプールを支える構造が痛んだ可能性があり、余震でその構造が壊れると、使用済み燃料棒が露出するだけでなく、圧力容器も破壊されるかもしれないと心配されている。構造の設計はおそらくGeneral Electric社によるものだろうが、何故そういう設計になったのだろうか？

原発事故は進行中のものだ。東電は6箇月から9箇月で核燃料の冷却を終えるとしているが、余り信用されているとは言えない。これが人々の心を暗くしている。そのせいか、GW中に海外旅行に出かける人の数は昨年比べて半減したそうだ。

政府が設置した東日本大震災復興構想会議でも、訳のわからないことを言う人がいる。委員の一人の作家玄侑宗久氏は福島県三春町にある禅寺の副住職だそうだ。この人は、菜種や向日葵には放射性物質を取り込む性質があるので、原発周辺の農地に、冬には菜種を、夏には向日葵を植えて、それらから取れる油をディーゼルオイルにする事業を立ち上げ、それを地域の活性化につなげるべきだと述べている。彼は同じことを自分のホームページにも書いている。これは一体どういうことだろう？ 菜種や向日葵に放射性セシウムなどを取り込む性質があるというのは本当かもしれないが、それから取った油は放射性セシウムを含むはずだ。それをディーゼルオイルとして使

えば、放射性セシウムを撒き散らすだけではないか。それとも、玄侑氏は、放射性セシウムなどは油層には入らないという証拠を持っているのだろうか？ 私は、そんなことはないと思う。放射線量が大きいといっても、それを出している放射性物質は普通極めて少量だ。少量の放射性物質は低い濃度で油層にも入るだろう。

地震学者の間で、世界的に地震活動が活発化しているという説が出ているそうだ。しかし、確証はないらしい。今回の地震以後、震源からかなり離れている長野や静岡でかなりの大きさの地震が起きていることから、今回の地震が広い範囲の地震を誘発しているのではないかということは素人でも感じることだ。それが、以前から予想されている東海地震、東南海地震、南海地震につながるのかどうか、誰にもわからないことだ。心配するだけでは何も進まないのだから、きちんとした対策を立て、それを着実に実行していくしかあるまい。実際、比較的周到的な地震対策が取られていた東北新幹線は、今回の地震で物的被害を受けはしたが、人的被害を出さなかったのだ。人事を尽くしたあとは天命を待つしかない。自然の中での人間は依然として小さな存在なのだ。（おわり）